

「財政健全化推進本部会議」市長訓示

【京都市の財政状況】

京都市においては、平成7年度以降、間断なく徹底した行財政改革に取り組んできた。そして、かつてのような右肩上がりの経済成長を期待し得ない成熟社会の中でも、財政運営を持続可能なものとするため、平成16年度から戦略的予算編成システムを導入し、効果的かつ効率的な財源配分を行うとともに、それ以降、毎年度40億円を超える事務事業の見直しを実施しながら、市民の安心・安全をしっかりと支え、未来の京都を切り拓く政策に力を注いできた。

しかしながら、毎年度の事務事業の見直しにより捻出した財源については、増大する社会福祉関係経費に振り向けざるを得ない状況であり、また、国の三位一体改革以降の全国平均を大きく上回る地方交付税の大幅な削減や、平成20年度後半からの急激な景気後退の影響を受け、市税収入が大きく減少するなど、本市の財政状況はさらに厳しさを増している。

このため、依然として特別の財源対策に頼る財政運営を行わざるを得ず、また、活用可能な基金もほぼ底をついており、京都市財政は依然として非常事態が続いていると言わざるを得ない状況にある。

【未来まちづくりプランの着実な推進】

来年度予算は、「京都未来まちづくりプラン」の総仕上げの予算である。

同時に、現在策定中の京都市基本計画の力強いスタートを切るための予算でもある。

これまでの予算編成では、厳しい財政状況にあって、最小の経費で最大の効果を上げるべく、市民の皆様と共に汗をかく共汗と、徹底して縦割りを排し政策を融合していく。そうした様々な創意工夫を凝らしながら、質・内容を重視した予算を編成してきた。

プランの総仕上げとなる予算編成に当たっても、ぜひとも、この4年間のプランの進ちょく状況の総点検をお願いしたい。

そして、その際には、費用対効果をこれまで以上に意識する。このことはもとより、決して形だけにとらわれることなく、実質的に政策目的がどの程度実現できているのか、どれだけ市民の皆さんの満足度を高めているのかを厳しく問い直していただきたい。そして、名実ともに「総仕上げ」と言える予算が編成できるよう、政策の質の向上をこれまで以上に追求していく必要がある。

【財政改革有識者会議の提言と本市の取組について】

次に、財政構造改革の取組についてであるが、

財政健全化団体、財政再生団体に陥ることなく、市民の安心・安全をしっかりと支えるとともに、未来の京都のまちづくりに向け、真に必要な政策・施策を推進するため、景気変動にも耐え得る強い財政の確立を目指し、昨年12月に財政改革有識者会議を設置した。

財政改革有識者会議においては、公共投資、人件費、社会福祉関係経費、市税等の歳入の4つの分野を中心に熱心で徹底した議論が、オープンな場で行われ、先月4日に「京都市の財政改革に関する提言」をいただいた。

提言においては、

一つには、

・低成長、少子高齢化時代にふさわしいコンパクトで機動的な財政運営への進化を目指して、財政運営の明確な目標を設定し、改革のための実行計画を策定する必要性が示されたこと、

二つには、

・財政を健全化し、将来にわたって持続可能なものとすることは、都市の成長のための戦略と財政の構造改革が一体となっはじめて可能となるものであること、

三つには、

・財政構造改革を進めつつ、重要政策を推進するためには、縦割りではない全市的観点に立った政策判断をより一層重視する予算編成システムへの見直しが欠かせないこと、

など非常に重要なご提案をいただいたものと考えている。

今後、この提言を具体化するため、徹底した情報公開の下、市民の皆様の意見も十分聞きながら、財政運営の目標と、目標達成のための具体的取組を定めた改革実行計画を策定していくこととしている。しかしながら、現下の財政状況を踏まえると、財政構造改革は待ったなしの状況であるため、来年度予算から取り組めるものについては、試行的に実施していくこととした。

【来年度予算編成】

来年度予算編成については、抜本的な財政構造改革の第一歩として、本市が全国トップ水準で実施してきた行政評価システムを活用し、各局区の長のマネジメントを活かして予算を編成するという戦略的予算編成システムの利点は

十分に生かしつつ、財政改革有識者会議の提言を踏まえて、予算編成手法を進化させることとした。

局ごとの縦割りではなく、局横断的、全市的観点から、市民生活の安心・安全を守る施策、未来の京都発展のための施策を厳選し、政策判断をより一層重視した予算編成を行うとともに、財政構造改革を確実に推進するため、未来まちづくり推進枠、局配分枠に加え、全市横断的な予算枠として、新たに給与費枠、投資枠、消費等枠を新設することとした。

投資枠については、市債発行額を縮減するため、投資規模を抑制することとし、従来行っていた各局への枠配分を行わず、全ての事業を対象に全市的観点から優先順位を明確にし、事業の実施計画を決定することとする。また、給与費枠については、行財政局と各任命権者、消費等枠のうち局配分枠については、行財政局と各局との緊密な連携の下での予算編成を行うこととした。

また、財政構造改革のための目標を明確化し、設定した目標を確実に達成する予算編成を行うため、財政運営の目標に基づく予算配分の目安額を、給与費枠、投資枠、消費等枠ごとにあらかじめ設定し、この目安額の範囲内での予算編成に努めることにより、財政運営の目標の確実な達成を目指すこととした。

【予算編成に当たって】

長引く景気の低迷の影響により、市民生活は依然として厳しく、また、京都経済も極めて厳しい状態が続いている。市民生活のいのちと暮らしを守る、安心・安全を確保する、中小企業、京都経済をしっかりと支えるために、お集まりの幹部の皆さんをはじめ、全職員の特段の努力と取組をお願いします。

この時こそ、英知を結集していただきたい。

最後になったが、各局区における予算編成作業が激務であることはよく承知している。各局の計理担当者をはじめ、大変なご苦勞をいただいております、本当に感謝している。更なるご苦勞をかけることとなるが、よろしくをお願いします。

お集まりの幹部の皆さんには、所属職員の健康管理にも十分留意いただき、業務のメリハリをつけていただきたい。

財政状況は厳しく、大変な作業になるわけであるが、明るく、活気溢れるそれぞれの職場を作っていただきたい。

職員の創意工夫、更なる英知の結集をお願いします。